

MIS027-P03

会場: コンベンションホール

時間: 5月22日 10:30-13:00

## 日本海上越沖の有孔虫化石群集の特性 Foraminiferal assemblages from the Joetsu region in the Japan Sea

大井 剛志<sup>1\*</sup>, 石浜佐栄子<sup>2</sup>, 長谷川 四郎<sup>1</sup>  
Takeshi Oi<sup>1\*</sup>, Saeko Ishihama<sup>2</sup>, Shiro Hasegawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 熊本大学大学院自然科学研究科, <sup>2</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館

<sup>1</sup> Kumamoto University, <sup>2</sup> Kanagawa Prefectural Museum

MD179 航海では, 日本海上越沖水深 1000m 前後の深海底にて, 多くの生痕を含む明色層と葉理構造を伴う暗色層の明瞭な縞状構造を特徴とする複数の海底堆積物コアが採取された。そのうち, 上越沖海鷹海脚の北東に位置する無名の海丘の嶺にあたる地点 F (水深 1026 m) で採取された MD10-3312 コアは, 全長が 31.115 m, メタンガスの噴出などに伴う層相の乱れがないことから, 上越沖海域の標準的生層序を確立するのに適している。以下の底生有孔虫化石群集の特徴が明らかになった。

1. 底生有孔虫群集組成は明色層と暗色層で大きく異なる。
2. 隠岐堆のほぼ同じ水深の結果 (Oi et al., 2007) と比べ, 酸化的な海洋環境を示唆する明色層においても貧酸素環境を好む種群の割合が多い。
3. コア上部の有孔虫群集が示す *Neoglobobulimina incompta* の卓越や *Pullenia apertura* の無産出は, 現在の海洋環境の成立を示す。

本海域はメタンの湧出海域として知られており, 貧酸素種群の卓越など, 底生有孔虫の特異性とメタン発生との関連性を考察する。

キーワード: 日本海, 底生有孔虫, ガスハイドレート, 貧酸素種

Keywords: Japan Sea, benthic foraminifera, gas-hydrate, suboxic species